

「サービスとコスト」両立する物流サービス 中ロット市場を 切り開いて新業態を確立

以前は存在しなかった中ロットの物流サービスにおいて、ボックスチャーターが新市場を切り開いている。そのサービスが「JITBOXチャーター便」である。ジャストサイズと低コストという特長に加えて、高い輸送品質や納期の短縮、さらにエコロジーにもつながるといった点が評価されて急成長を遂げてきた。現在は、減産を受けて物流の再構築を検討する製造業からの相談も増えているという。

中ロット特化型の 新しい物流サービス

いま、物流サービスの新しい業態が関心を集めている。ボックスチャーターが展開する「JITBOXチャーター便」である。中ロット輸送という分野に新市場を切り開くことで、2006年に、このサービスを開始した同社は着実に成長を遂げてきた。



ボックスチャーター株式会社代表取締役社長
小佐野 豪績氏

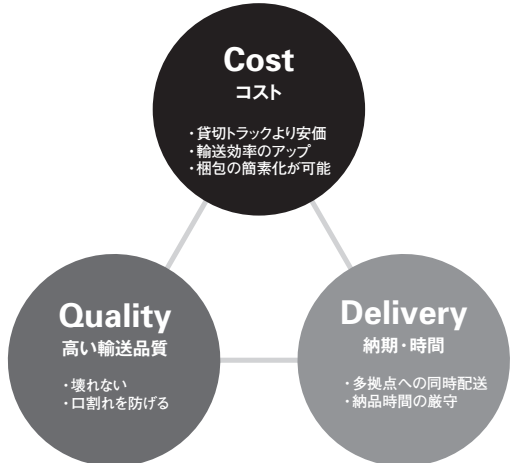
なぜ、中ロットなのか。同社社長の小佐野豪績氏はこう説明する。「トラック輸送は、貨物を常に満載できるわけではありません。時には半分の積載量で輸送せざるを得ない場合もある。そこで、積載貨物量とトラックの大きさのアンマッチを解消するビジネスモデルを構築できないかと考えました。こうして生まれたのが、中ロットに特化したJITBOXチャーター便です」

従来のサービスは大量輸送に適した貸切トラックか、あるいは小口の宅配便に限られており、その中間である中ロットのサービスはほとんど存在しなかった。そこに着目してスタートしたサービスだが、これはほとんどヤマト運輸にその源流を見ることができると述べている。

「ヤマト運輸が宅急便サービスのために開発した、ロールボックスパレット（以下、RBP）というキャスター付き貨物輸送用コンテナがあります。縦横約1メートル、高さ1.7メートルの大きさと、四方を柵で囲まれたボックス。これを丸ごと使いたいというニーズに対応して、このサービスは始まりました」と小佐野氏は説明する。

ヤマト運輸は中ロット市場の大きな可能性に注目したが、自社だけで新サービス

様々なメリットのあるJITBOXチャーター便



低コストでありながら、高い輸送品質や納期の短縮、配送時間の指定などのメリットを実現。いずれかを犠牲にするのではなく、すべての価値を追求できるところに、このサービスの革新性がある。

「物流コストの削減は、難しい側面を持っています。というのも、トラックの積載貨物量が半減し

たからといって、物流コストを半分にできるわけではないからです。また、物量が減っても納期は厳守する必要があります。輸送の頻度を落とすわけにもいきません。JITBOXチャーター便は、こうした課題に対する解決策を提示することができます」(小佐野氏)

「現在では、ATMや複合機などの精密機械の輸送にも活用されています。従来、こうした機械は木枠で梱包するなど厳重に保護して輸送する必要がありました。これに対して、JITBOXチャーター便では、四方を頑丈な柵で覆われた

スを成長させるには限界がある。そこで、他の地域の有力な運送会社にも声をかけてJITBOXチャーター便が誕生した。現在では、セイノーホールディングス、日本通運など15グループが、加盟販売会社（FC）として同サービスを展開している。FC各社はそれぞれが営業や集荷を行い、都市間の幹線物流あるいは自社ルートを持たない地域への配送などは他のFCに委ねる。運送会社としては、トラックの空きスペースを埋めることができるため、輸送効率のアップにつながり、顧客にとっては、貨物量がトラック1台に満たない場合でも、1台分の料金を支払う必要がなくなるため、物流コストのダウンにつながる。つまり、顧客と運送会社の双方にメリットがあるサービスなのです」と小佐野氏は説明する。

高い輸送品質と、そのベースにあるジャストサイズというメリットを追求すれば、コスト高になるのが普通だ。一般的には品質とコストはトレードオフの関係にあるのだが、JITBOXチャーター便はそれを両立させる。このユニークさは多くの企業から注目を集め、その活用領域も拡大している。

物流作業を効率化し 梱包を最小化

例え、ある印刷会社では、JITBOXチャーター便をオリコミチラシの輸送に活用している。目的地は全国各地に散在する数十カ所のオリコミセンター。チラシは最後の段階まで内容の修正が続くため、印刷完了はギリギリのタイミングになる。チラシを詰めた日の朝刊に間に合わせるためには、急いでセンターに届けなければならない。時間優先なので輸送効率は二の次になり、多数のトラックをチャーター。その結果、物流コストは高止まりしていた。そこで、印刷会社はJITBOXチャーター便を導入。物流コストを約4割削減したという。

JITBOXチャーター便を使えば、必要なものから順番に運び込むことができる。例えば、設備関係は10時、什器は11時、展示商品は12時の便という具合だ。ブースを設置する複数の企業が、1つのトラックに相乗りする形になるため、積み下ろし場所の混雑も緩和される。小佐野氏は以上のような特長をさらに磨きつつ、今後は様々なサービスを付加することで、JITBOXチャーター便の成長を加速させようとしている。



ロールボックスパレット（内寸1.04×1.04×1.7m）1本を単位として、中ロットの物流サービスを提供するJITBOXチャーター便。このボックス8本が、4トラックにぴったり収まる。

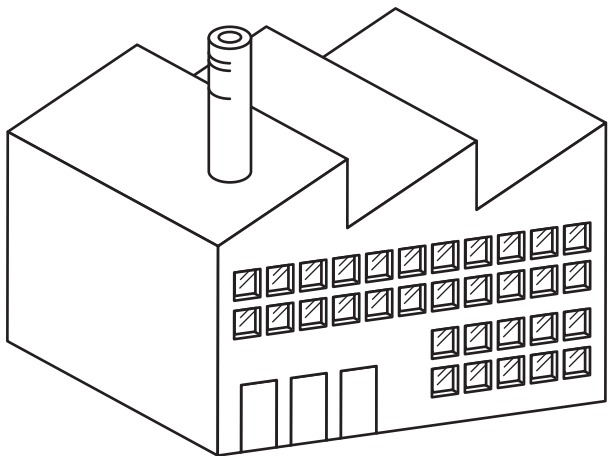
広告

企画・制作=企画・宣伝協同組合

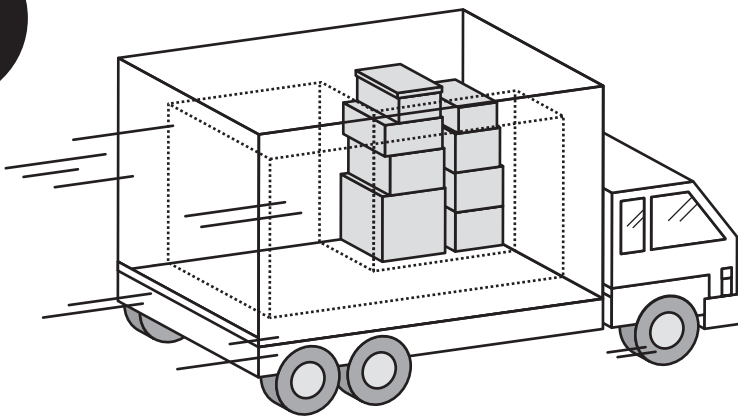
造るものが減りました。

運ぶ量も減ります。

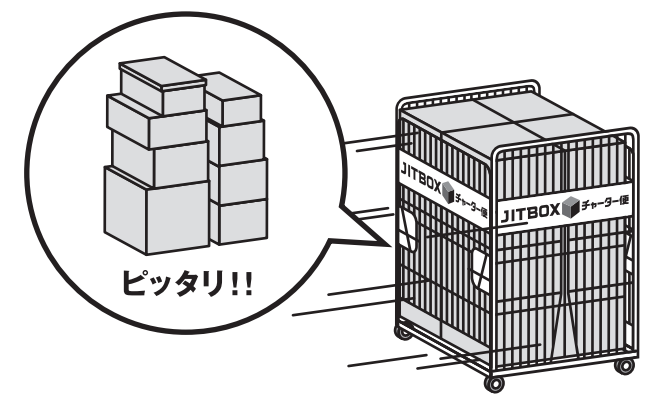
輸送コストは
どうですか？



当然



では



お応えします。資料請求はこちらへ。

ボックスチャーター

検索

ジャストサイズで輸送コストダウン。

JITBOX **チャーター便**

